

## 北ア ダイヤモンドコース2nd (今年は晴れる・?)

## 太郎兵衛平~黒部五郎岳~双六岳~笠ヶ岳

実施日	2015年8月2日(日)~6日(木)
天候	全日 晴れ (午後一時曇り)
リーダー	涌井 良明
参加者	涌井良明、山崎富美恵、白石恵美子、石附智江、渋谷京子、中村友子、伊藤久雄、石原勝正、徳山敬子 計9名
費用	JR20,430円(正規料金) 5,330円 宿泊費37,800円 合計63,560円
タイム	8/2 富山(8:26~54)有峰口(9:31~40)折立(10:35~50)1600 近(11:38~45)三角点(12:41~13:10昼食)1970近(14:00~08)五光岩(14:50~15:00)太郎平小屋(16:00)
8/3	太郎平小屋(6:30)北ノ俣岳(8:40)赤木岳(9:10)中俣乗越(10:10~45昼食)黒部五郎岳(12:50~13:00)2600近(13:40~50)黒部五郎小舎(15:15)
8/4	黒部五郎小舎(5:50)2530近(6:40~45)2620近(7:10~15)三俣蓮華岳(9:00~40昼食)双六岳(11:30~50)双六小屋(12:50)
8/5	双六小屋(5:30)弓折乗越(6:45~55)大ノマ乗越(7:20~30)大ノマ岳先2630近(8:20~30)秩父平(9:08~15)2750近(10:10~40昼食)笠ヶ岳山荘(13:00~13:30)笠ヶ岳(13:50~14:05)笠ヶ岳山荘(14:15)
8/6	笠ヶ岳山荘(5:40)下山路分岐(6:50~7:00)杓子平近(7:55~8:05)左俣林道・笠ヶ岳新道登山口(11:20~25)新穂高温泉ロープウェイ駅(12:20~13:30入浴)松本B T(15:30~16:58)

今年の北アルプス縦走は5日間共雨に降られることもなく、北ア最深部も含んで歩く山旅は決して楽々歩きではなかったが、メンバーにはそれを補い上回る、

山の楽しさ・素晴らしさを味わうことができた山行ではなかったでしょうか。

8/2 この春開通した北陸新幹線で東京駅から2時間10分、快適に富山駅へ。

一転もろローカルな地铁に乗換え有峰口へ、更に登山口で折立に。それでも10時半過ぎには到着できた。このアプローチ時間の短さは、夜行列車と満員の(ザックはトラック)で初め折立に辿り着いたことを思い出すと本当に改めて隔世の感がある。



で、前回は雨の中の出発準備だったが、今回はギンギンの夏満開で日蔭で準備を整えて、勇躍

通いなれた？太郎坂を登り出す。これから5日間の長丁場なので小屋泊りではあるが、ザックもそれなりに重いので一気に汗が吹き出す。とは言え何度か登って様子も分かっているので気分は楽だ。途中で休憩を挟み三角点へ。

この頃には薬師岳方面には雲が広がり、お馴染みの薬師小屋も隠れてしまっていた。いつも乍らこの先からの登りは長いだらだら登りが続き、特に今日の様に暑い時には辛い登りだ。



2回の休憩を入れて16時、太郎平小屋に着く。



まずは生ビールで初日のお疲れ様となった。夕方一時にわか雨の音が聞こえたが、

明日の天気予報は？ 心配ご無用！

8/3 6時半に小屋を後にする。快晴の空が嬉しい。太郎山を過ぎるとコバイケイソウが見え始めるが、今年は当たり年ではない様でその数は控えめだ。

今回辿るダイヤモンドコースはフラワ



一ロードであるが、タイミングとしては絶好調、行程中両側から我々をもてなしてくれた。勿論、眺望でも飽くことない北アルプスの山岳美を惜しげもなく、存分に見せてくれた。



北ノ俣岳への道で親子で朝食中のライチョウに遭遇、しばし愛らしい姿に見とれてしまう。

神岡からの道を合わせた後に前回は風雨で立止まることも出来なかった北ノ俣岳で、薬師岳の雄姿や、向かう黒部五郎岳を望む。

北アで最も美しい風景の稜線歩きと言われるコースだが、まさに相応しいと思わせる快適な道を行く。赤木岳の岩道を過ぎ、中俣乗越へ下る。

気持ちの良い草原の中俣乗越で、黒部五郎岳への登りにかかる前に腹ごしらえタイムにする。



あまり歓迎したくないようなガスも流れているが草原のランチタイムを楽しんだ。

さて、中俣乗越から小ピークを越して西風を受けるようになると黒部五郎岳の肩への急登になる。一昨年は風雨で低体温症も懸念された登りだが、今回は涼しくはあるが暑くない急登といったところだ。食後の元気で一気に肩へ登り、右へ山頂に向かう。礫岩を踏むと小さな標板が立て掛けられた山頂に出た。



雲はやや多く空気感もすっきりではないが、高みからの展望と山頂のひと時を味わう。

黒部五郎小舎へはメンバーの強力なプッシュもあって稜線ルートに行くことにするが、予想はしていたが、一般路とは言え岩稜のアップダウンが連続するルー

トであった。足場定めには慎重を要する個所も多いが、マーキングもあり山慣れしているなら変化あって楽しめるルートだろう。我がパーティも山慣れはしているが、それでも大分時間を要して歩いた。

途中黒雲も流れ小さな雷鳴も聞こえたが、灌木の茂る小沢を下りきると黒部五郎小舎のテ



ント場を抜けて小屋に到着。今日は五郎さんの下りの気疲れも加わってやれやれ、お疲れさん。

但し、恒例のテラス会？はしっかりだ。元気過ぎるだろう！ってか(@\_@)

周辺のコバイケイソウは今年はやはり控えめだが、このくらいが丁度良い？

8/4 今日双六小屋までとやや短めの行程で気分的には＼(^o^)/だが。

5時50分出発、小屋の裏に回るように登山道が始まる。

今日も午前中は天気は☺である。

この急登も前回は雨音を聞きながら歩いた所だが、今日は一步ごとに周囲の眺めが変わり高度が上るのが実感できて快適な登りになる。

灌木帯から森林限界になると昨日の黒部五郎岳の姿に二度惚れである。



その左奥には特徴ある笠ヶ岳が良く目立ち、手招きをしているように感じてしまう。あしたは行くよ～！

三俣蓮華岳を形作っている西側に延びる尾根を辿る。両側にカール地形をただく痩せた尾根だ。三俣山荘への巻道を分けて山頂への急登が緩くなると三俣蓮華岳山頂部である。数回訪れた山頂だが、その中でも今日は一番の眺望である。

北ア最深部に位置する巨大な交差点でもあるだけあ





って、ぐるりと取り囲むのは日本の名だたる峰々であり、今はその眺望をほしいままである。

その贅沢な山頂で早めではあるが、ゆったりとランチタイムを洒落込んだ。

三俣蓮華岳を後に南に延びる稜線を双六岳を目指す、この先後半の縦走は槍穂高の峰々もお供に歩くことになる。

残雪が良いアクセントになっている尾根を進み、2851㍎のピークに登り、



双六池巻道分岐を分けて、しばらく登ると、双六岳山頂に出る。

しばし山頂撮影会で大騒ぎ？ 他の登山者の皆さんお騒がせしました (^^)

ひろ～い頂稜のケルン道をのんびり進み、一気にガレの急な下りを行くと双六小屋が見えるようになり巻道ルートと合流して、一下りで双六小屋に着く。

今日の歩きはここまで、明日に備えてテラスの宴と談話室でのダベリ会をこなしてオヤスミナサイ。



8/5 今日は手招きされていた？ 笠ヶ岳へ向かう。池畔のテン場脇を抜けて、



笠ヶ岳を正面に山腹の道を南に進み、2587㍎ピーク付近で稜線を絡むようになり逆光の槍穂も見られるようになる。

弓折乗越で一息、我々と前後していた登山者も多くは此処から鏡平へ下るようで、笠ヶ岳方面へ入るとグッと数が減る。

！ン、静かになったからか？ 弓折岳付近で再びライチョウさんに遭遇です。人を怖がる風もなく朝食をしておりました。弓折岳から大ノマ乗越

！ン、静かになったからか？ 弓折岳付近で再びライチョウさんに遭遇です。人を怖がる風もなく朝食をしておりました。弓折岳から大ノマ乗越



まで下って、急登の登り返しで大ノマ岳(山頂は通らない)を越す。道は概ね稜線通しに進むが左側が切れ落ちている個所や岩交じりで、決してお気楽な稜線歩きではない。



カール地形の秩父平で一服して、左の巨岩(秩父岩)を見ながら正面の抜戸岳～笠ヶ岳へと続く稜

線をめがけて登る。

両側のお花畑は見事で癒されながら、ジグザクに登り、雪田(ロープを伝って登行も可)の縁を慎重に登って稜線上に立つ。此処からは笠ヶ岳に向かってただ前進するだけとなる。なので、その前に秩父岩裏側付近の稜



線上で腹ごしらえタイムをとる。この頃になると大分雲(ガス)も湧き出して、視線が遮られるようになってきた。

抜戸岳山頂へは意見一致でパス、その先で笠新道への下山路分岐を分けて、稜線上を小さな登降を繰り返しつつ進む。抜戸岩と言われる両側にそそり立つの間を抜け見え隠れする笠ヶ岳も近付いてくる。笠ヶ岳への最終ピークを越すと、笠ヶ岳山荘が頭上に近づく。

最後は急登しないと辿り着けないということである。テン場の水場で水を補給して、岩礫のマークを追って登り切って笠ヶ岳山荘に着く。ガスが流れ山頂は隠されているのがちょっと残念。

チェックイン後、取り敢えず空身で山頂へ向かう、



ガラガラの岩道を登り祠のある頂稜に出ると左へ僅かで山頂だ。遠望はないが

周囲の山並みは流れるガスの合間に見え隠れして、まあまあである。各自掲げ山名板写真を撮ったり、今回の行程の締めくくりの頂を存分に楽しんだ。小屋に



戻って、いつものパターンを楽しむが、最終泊にしてはやや控え目だった？さすがに今日は4泊目だもんね。夕食後は談話室で山と花の話題で盛り上がって、最終泊も暮れた。

明日は下山だ。長かった様な、短かった様な。平日だが山の最盛期、夕刻まで続々と宿泊者が詰めかけ小屋は満員、相も変わらず〇〇山人気は続いている様だった。

8/6 最終日も穏やかに明けた。

槍一穂の稜線越しに登る朝日は5時頃、朝食と重なるので朱みを増した山稜を撮影して食卓に座る。下山の時間も気になるので食後は準備出来次第の



5時40分に山荘を後にする。

標高差1700m以上になる長〜い下山が始まった。

下山口までは昨日の道に戻る形で朝日を浴びながら右に落込む穴毛谷を見ながら縁を回り、下山路分岐へノンストップで歩く。短く登ってから眼下の杓子平へ一気に下って行く。岩ガレの急下降だが10年前に下った時に比べよく踏まれている様だ、これだけ登山者いれば当たり前か(^\_^)



傾斜が緩くなると杓子平で、もう笠ヶ岳は頭上遥かに高い存在になってしまった。杓子平を造るカールの縁に向かって緩く登り、縁の尾根を乗越すと笠ヶ岳方面はマジックの様に消えて、ひたすら急な笠新道の下りになる。

時々現れる花々や標高100mおきに置かれた銘板、前方の穂高の眺めは慰めだが、あとは何も考えず、次の足の置き場選びを繰り返し体を下へ下へと運ぶのみ



であるが、長い下りもまた楽し？である。標高が下がるに連れ汗の吹き出しも暑さも増して、水分補給も頻繁になる。

植生も灌木から樹林帯に変わり低くなったのが実感できる。

3時間余で笠新道も下り切って蒲田川左股林道の笠ヶ岳登山口に降り立った。

脇の水場で喉を潤して、林道を新穂高温泉へ辿る、途中岩穴(風穴)の天然クーラーの冷風で暑さしのぎをしつつ歩く。



12時20分新穂高ロープウェイ駅(BS)に着く。近くの中崎山荘で5日の汗を流して、13時30分発の松本行(1本のみ)で帰京につく。

今回の縦走は歩行距離48kmに及びここ数年当会では最も長距離を歩いた山行であったが、何と言っても山は天気が良いければ9割方は成功と言われるが、それを当てはめれば大成功だったと言えるだろう。本当に全日に亘って常に日本の厳選された絶景を眺めながらの歩けたと思える行程だった。

このような山行を実施させてくれた全てに感謝しつつ、これからも山行を重ねていければ幸いである。

メンバー各位には山行を振り返ると、良かったこと、あまり良くなかったこと、気になったこと、その他、諸々思うところがあったと思います。



それらの諸事を、今一度反芻して自分の山の経験値として、今後山へ向かう際の糧としていただくことを期待しています。(要は自分なりに山行の反省をしてみてー！ってことですがね)

(記&写真・涌井 良明)

(写真提供・伊藤 久雄)